



絶滅の危機にある

ヨウムを救おう!

ヨウムはアフリカ中部・西部の熱帯林に住むインコです。ペット市場のための乱獲と熱帯林の破壊で野生ヨウムの数は急速に減り、絶滅への危惧から2016年に野生ヨウムの国際商取引は一切禁止されることになりました。



でも密猟は続いています。

安易な飼育は絶対にやめましょう

絶滅に手を貸すことになりす

ヨウムの繁殖は簡単ではなく、飼育下で生まれたヨウムだけで市場の需要をまかなうには程遠いのが現実です。野生ヨウムの輸出入はワシントン条約で2016年に禁止されましたが、アフリカの原生地では密猟と違法取引は続いています。象牙や犀角同様、需要をなくすことが種の保存のための決定打です。

ヨウムの飼育は大変です

ヨウムはとても知能が高く、繊細で、群れで暮らす鳥です。このため、一羽だけで放置しておくとう精神的障害を起こします。一方、きちんと飼育すると70年は生きます。ヨウムが心身ともに健康な生活を送れるだけの世話を70年にわたって保証できるのはごく限られた人だけです。

すでに飼育している方へ

環境省の登録機関による登録を

国内でもヨウムの売買や譲渡は原則禁止となりました。現在飼育しているヨウムの将来の売買や譲渡をするためには、規制が発効する前にそのヨウム個体を入手していたことを証明し登録する必要があります。当面売買や譲渡の予定が無くても早期に登録手続きをしておくことをお勧めします。くわしくはこちらへ ↓↓↓
<http://www.jwrc.or.jp/cites/infomation/yomu201612.pdf>

ヨウムの健康状態はどうですか?

信頼できる情報入手して、ヨウムがなるべく本来の生活に近い生活を送れるよう生活の質の向上に努めてください。自分で羽をむしっているようなら、退屈したりストレスを感じたりしている兆候です。

ペットショップに並ぶ1羽のヨウムの背後には20羽の犠牲が



密猟者に捕らえられたヨウムは、狭いケージにすし詰めになされ劣悪な環境にさらされます。



密猟者から押収したヨウムの多くは健康状態が悪くなりリハビリを要します。



多くは手遅れです。とうして多くのヨウムが原産地を離れることすらなく死んで行きます。さらに多くが輸送の途中で死んで行きます。

コンゴのヨウムを救うための活動にご協力ください ※裏面もご参照ください

japangiving.jp/p/5462

コンゴ共和国で、密猟の摘発と防止、捕獲されたヨウムのリハビリと野生復帰などの活動を行っています。クラウドファンディングによる資金集めにご協力ください。

特定非営利活動法人
アフリカ日本協議会
Africa Japan Forum (AJF)
www.ajf.gr.jp/lang_ja/index.html

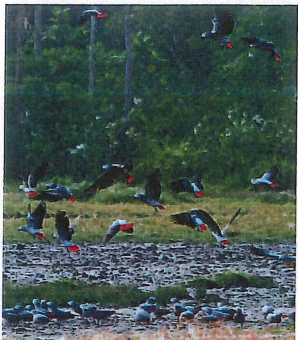


〒110-0015
東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3階
03-3834-6902
ajf.tropical@gmail.com

銀行振込: 三菱東京UFJ銀行 上野支店/普通口座 5305887
口座名: トクビ アフリカニホンキョウギカイ

郵便振替: 00120-3-573276
口座名: 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

ヨウムとは



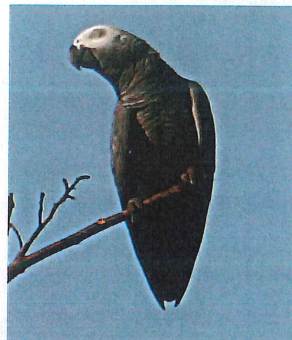
© Dana Allen/World Parrot Trust

アフリカのインコ

ヨウムはアフリカ中部・西部の熱帯林に生息するインコの仲間です。ペットショップでしばしば「フィリピン産」と書かれていますが誤りです。

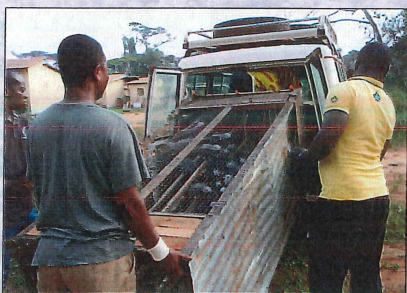
知能が高く、繊細

ヨウムは集団で遊動しながら主に森林の果実などを食べて暮らす社会性の強い鳥です。知能も高く、人間の4歳児から5歳児程度の知能があると言われていています。このため環境の変化に敏感で、一羽で放置されると不安や退屈で高いストレスを感じてしまいます。



©西原聖美子

野生ヨウムの保護にご協力を!



©西原聖昭

密猟者から押収したヨウムをリハビリ施設に運ぶ森林警察



©西原聖昭

リハビリ用のヨウム舎



©西原聖昭

リハビリ施設では獣医が必要な手当てを



©西原聖昭

すっかり元気になってリリースを待つヨウムたち

アフリカ日本協議会の理事であり、Wildlife Conservation Society (WCS)コンゴ共和国支部の職員である私は、コンゴ共和国でヨウムやマルミミゾウ、ゴリラ、そして彼らの住む森林生態系の保全に取り組んで来ました。

このたび私は、ヨウムの密猟の監視・取り締まりを強化し、押収したヨウムを一羽でも多く健康に野生復帰させることによりヨウムを絶滅の危機から救うためにjapangiving!によるクラウドファンディングを始めました。

目標達成額: 250万円

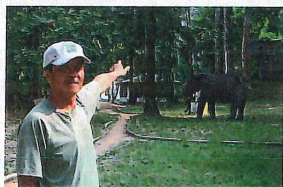
期間: 2017年3月1日から2018年1月31日まで



集まった寄付は、現地でのパトロール隊の費用、押収した野生ヨウムのリハビリ用の鳥舎の増築・修復・改善や、装備の拡大充実、飼料・薬品の調達と獣医の費用などに使われます。

ヨウムを絶滅から救うため、是非ご協力をお願いいたします。

西原聖昭



©西原聖美子



特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会について

www.ajf.gr.jp/lang_ja/index.html

アフリカと日本の市民を対象として、(1) アフリカの政治・経済・社会的困難や環境破壊の危機を解決するため、アフリカの人々の自発的な取り組みへの支援と協力を推進すること (2) アフリカに関わる人々のネットワーク形成により、アフリカに関わる様々な活動の強化と理解を促進すること (3) アフリカに関わる調査研究や情報発信、セミナーなどへの参加や開催等を通じて、アフリカの人々にも重大な影響をもたらす日本の政治・経済・社会・生活のあり方を問い直し提言することを目的とします。2004年にNPO法人の認証取得。



Wildlife Conservation Society (WCS、野生生物保全協会) について

www.wcs.org

ニューヨークに本部を持ち、常時40カ国から60カ国で野生生物と生息環境の保全の活動を行う国際NGOです。WCSのコンゴ共和国支部では、コンゴ共和国政府との協力のもと、20年以上に渡り野生生物の研究調査と違法行為の取締をサポートしています。